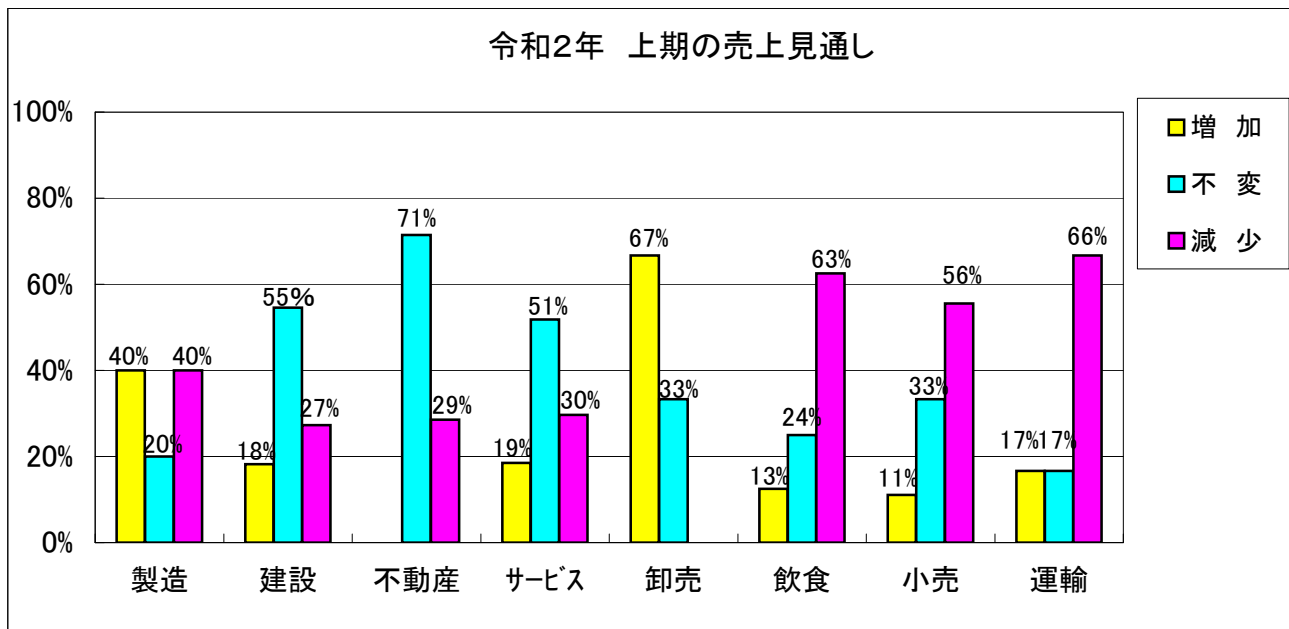


調査2 令和元年7月～令和元年12月を基準とした令和2年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

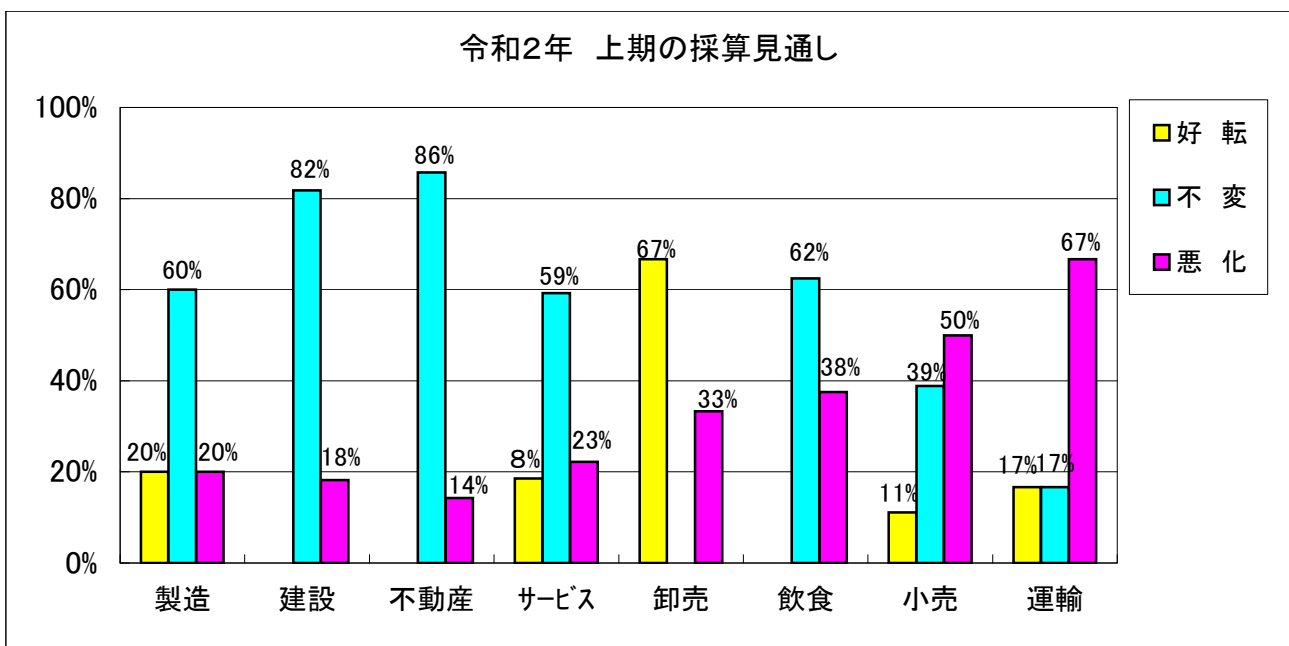
①売上見通し

全体でみると「増加」19%（前回22%）、「減少」40%（前回24%）、「不変」41%（前回54%）となっている。業種別でみると「増加」の見通しがあるのが卸売業（67%）、一方、「減少」の見通しが強いのが運輸業（67%）であった。



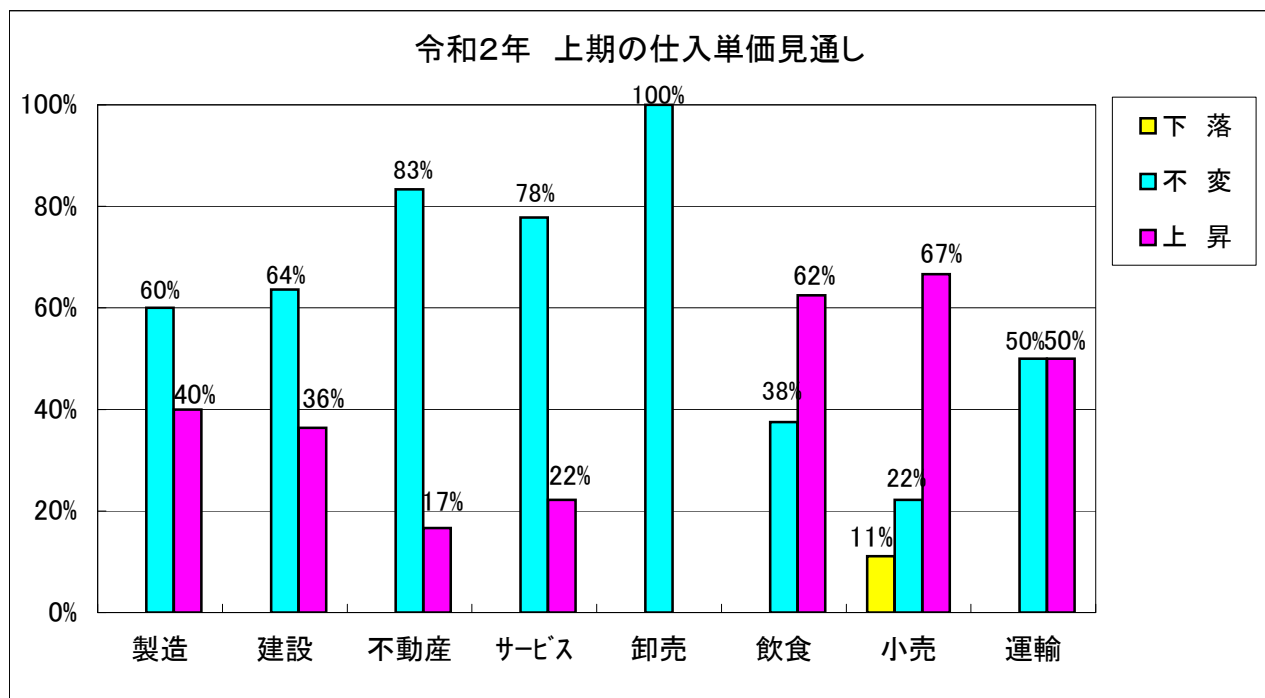
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が13%（前回15%）、「不変」が56%（前回63%）、「悪化」が31%（前回22%）となった。業種でみると、「好転」の見通しが高いのが卸売業（67%）で、「悪化」の見通しが多いのが運輸業（67%）小売業（50%）となっている。



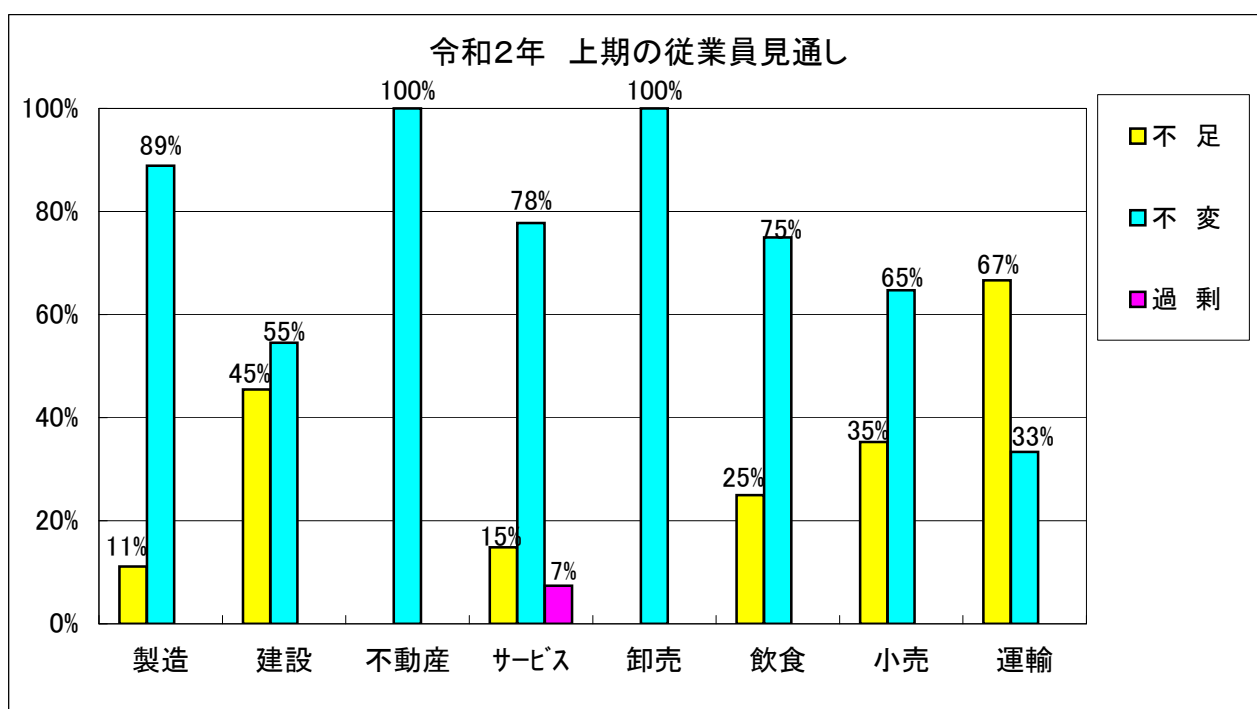
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が58%（前回64%）、「上昇」が49%（前回34%）の見通し。業種別では「上昇」が高いのは小売業67%（前回53%）、飲食業62%（前回64%）となっている。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が25%、「不変」が73%、「過剰」2%であった。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業67%（前回40%）、建設業45%（前回15%）であった。

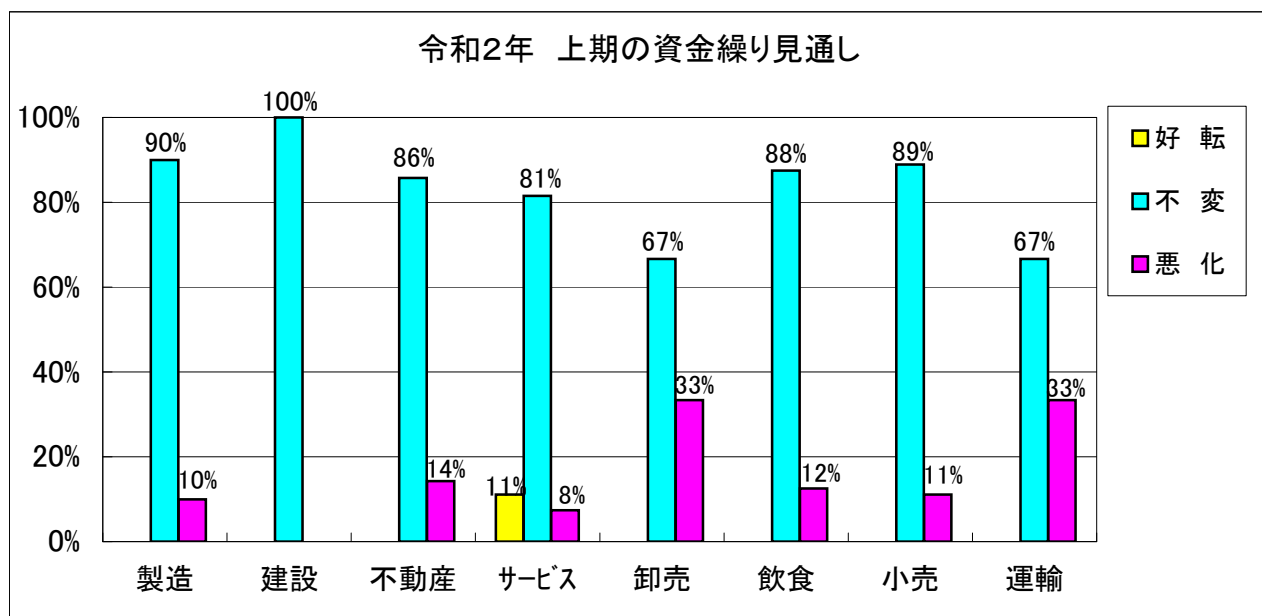


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が86%と多く、「悪化」が11%、「好転」が3%であった。資金繰りが「悪化」の見通しが高いのが運輸業33%（前回0%）卸売業33%（前回0%）で、非常に厳しい見通しであった。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(58%)が多く、続いて「融資無し」(26%)、「緩やか」(9%)「厳しい」(7%)となっている。業種でみると、「緩やか」の回答が多かったのが卸売業(33%)、「厳しい」との回答が多かったのが飲食業(25%)であった。

